

だっこするよ

2025 年 10 月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

いのち・心・からだ

性教育は、幸福への教育

空が澄渡り、秋風が心地よい季節となりました。彼岸花がそこそこに咲き誇っています。子どもたちは、お散歩で見つけたドングリや落ち葉を手に、宝ものように持ち帰り、嬉しそうに話してくれます。ようやく秋の到来ですね。子どもたち、夏の疲れも無く、給食を美味しく食べる姿に逞しさを感じます。生活習慣も安定して実りの秋ですね。

今月より未満児クラスでは、保育参観が始まります。是非、ご参加ください。

一般社団法人千葉県助産師会の鶴岡助産師さんをお招きし、「いのち・心・からだ・性教育」についての講演会を先月末に行いました。医療従事者として出産前後に関わってこられたご経験をはじめ、これまでの様々な教育機関で思春期を生きる子どもたちに寄り添ってきた事例や、模型を使っの体の仕組みについて、性犯罪に関する内容などを鶴岡先生ならではのパワフルで愛情あふれる語り口でお伝えいただきました。会場は笑いと涙に包まれ、心に深く響く時間となりました。

鶴岡先生は、冒頭に「皆さんがここにいるのは、命懸けで産んで、育ててくれた人がいたこと、それは、養子縁組でも同じですよ。全ての人々はかけがえのない存在なんです」と。思春期の子どもたちには、「命が大事というよりも、『あなた』が大事なんだよ」と伝えていきます。ある園長は、「涙が溢れて困りました。自己肯定感が上がりました」と話されていました。一部内容をお伝えします。

人の体の全てがプライベートゾーンであること。プライベートゾーンは、バウンダリー（境界線）で守られるが、体のバウンダリーが守られない時に「やめて」でやめないと家族でも暴力になること。心のバウンダリー（境界線）時間・金銭的・社会的・気持ち・仕事などにおいて入り込まれ過ぎないように「ノー」を言う練習すること。心と体の境界が守られない時には、はっきり「ノーと言う」「その場を離れる」「大人に話す」ことを子どもに教えていくことが性犯罪から子どもを守ることになると学びました。

そして「性を遠ざけるのではなく、正しい知識を学ぶことが重要である。」「性について子どもから質問されたらチャンス。隠さずに伝えて、親子で話せる関係をつくること。性教育の絵本を一緒に読むのがおススメ。リビングに性の絵本を蒔いておきましょう」「性教育を受けた子どもは、性被害から狙われにくい…」鶴岡先生の熱い言葉が心に刺さりました。

また、今回の性教育研修会には、保護者の方々、園職員、近隣の保育園、法人姉妹園、保育士仲間も共に学ぶことができました。子どもたちを性犯罪から守るために、1人でも多くの子育て中の皆さん、子どもに係る職種の皆さんに鶴岡先生に出会って欲しいとその願いを強くしました。鶴岡先生からの性教育「命の授業」は、食事や睡眠を摂ることと同等に大切なことで、今後も継続して参ります。ご参加いただいた皆さん、本当に有難うございました。

【保護者の感想より】

*こんな心に響く命の授業を思春期に受けられたら、この先の人生観が変わるはず。家族を、自分自身を大切に思える素敵な研修でした。

*初めて知ることの連続で、特に「汚れた下着とは言わない」という言葉には一番の衝撃を受けました。子どもの体を否定的に捉える言葉を避けるように、直ぐにでも意識を改めていきたいと思いました。

そして、同日は、職員研修として保育の質を深めて、日々の保育への気付きとなるように大切にすべき視点を「安心」と「挑戦」についてグループワークを行いました。（2階玄関に掲示しています）

子どもたちにとって「安心」の土台と「挑戦」への主体的な活動が循環して遊びや生活ができるように、職員間でより連携して、今年度の後半期へと進めて参ります。「こどもまんなか」時代、子どもを主人公にして取り組んでいきます。

（写真は鶴岡先生 性教育の講演会の様子）